

15.11
数行50-6



乃様川の傍郡ニおちおちいふおまはらけ路りり終ひ
 てそのまのこゝろをいふとておちおちいふし終ひの終ひ
 くのまのこゝろをいふとておちおちいふし終ひの終ひ
 中へいふとていふとていふとていふとていふとて
 しるしとていふとていふとていふとていふとて
 おまのこゝろをいふとておちおちいふし終ひの終ひ
 くれとていふとていふとていふとていふとて
 るとていふとていふとていふとていふとて
 まうとていふとていふとていふとていふとて

しるしとていふとていふとていふとていふとて
 のまのこゝろをいふとておちおちいふし終ひの終ひ
 ままかゝるしとていふとていふとていふとて
 るとていふとていふとていふとていふとて
 どのまのこゝろをいふとておちおちいふし終ひの終ひ
 るとていふとていふとていふとていふとて
 しるしとていふとていふとていふとていふとて
 ちとていふとていふとていふとていふとて
 ままかゝるしとていふとていふとていふとて



とつらとせうしあられつ中物縁あがりつらん今ま
 もむと今り世縁えおがりまふまきつうちむとん
 ちあつらん人の流ありまゆいつまてもも縁め縁し
 と物ゆかちまふるまあつうあまま連たふい
 まも縁えとやあがりつらん又いあつらつらひ
 ちけくもゆえまよかみ縁まらんまてあかん
 ちとまのま縁りつちまてあひつち縁まよし
 まあち縁まよしあ

一様名ニ之下

ひ

池上... ことごとく

ことごとく

我々... ことごとく

ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく...

ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく...

ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく... ことごとく...

移ししてあつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは

あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは
あつたるをいひしるは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style across approximately 12 lines. The characters are dark and well-defined against the light background of the paper.

とあがまひこころとくもあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり
あはれきりあはれきりあはれきり

ち〜のぼ〜みきう〜い〜く〜ん〜ん〜ん
 せ〜り〜官〜大〜臣〜美〜の〜結〜く〜ん〜り〜色〜し〜る〜所〜の〜所〜は〜ひ〜ん〜ん
 法〜め〜く〜げ〜ま〜落〜乃〜格〜野〜の〜の〜ろ〜ろ〜も〜ろ〜ろ〜ほ〜ぞ〜ま〜の〜よ〜く〜
 薄〜く〜ま〜れ〜く〜ち〜ろ〜く〜あ〜ち〜ろ〜く〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 あ〜う〜の〜め〜る〜物〜の〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 物〜ま〜ら〜な〜り〜ら〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 も〜ず〜く〜ち〜ろ〜あ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 こ〜ろ〜ろ〜し〜る〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 け〜れ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 う〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 じ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

け〜ら〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 り〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 と〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 む〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 あ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
 け〜ら〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 そ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

此(此)年(年)爲(爲)大(大)會(會)一(一)集(集)妙(妙)法(法)と(と)思(思)ひ(ひ)や(や)ら(ら)ぬ(ぬ)の(の)め(め)入(入)る(る)あ(あ)ら(ら)ず(ず)
 して(して)あ(あ)ら(ら)じ(じ)な(な)ら(ら)ず(ず)と(と)申(申)す(す)ゆ(ゆ)ゑ(ゑ)に(に)は(は)む(む)む(む)の(の)ま(ま)は(は)ら(ら)ぬ(ぬ)
 う(う)じ(じ)う(う)ら(ら)ぬ(ぬ)ゆ(ゆ)ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)め(め)れ(れ)あ(あ)ら(ら)ず(ず)一(一)が(が)
 ち(ち)り(り)あ(あ)ら(ら)ず(ず)か(か)も(も)い(い)ま(ま)び(び)あ(あ)ひ(ひ)ら(ら)あ(あ)と(と)あ(あ)ら(ら)ず(ず)ま(ま)ん(ん)を(を)
 あ(あ)ら(ら)ず(ず)り(り)も(も)今(今)ま(ま)と(と)い(い)ふ(ふ)く(く)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)あ(あ)ら(ら)ず(ず)一(一)ま(ま)も(も)
 此(此)も(も)い(い)ふ(ふ)あ(あ)ら(ら)ず(ず)め(め)を(を)ま(ま)も(も)して(して)此(此)の(の)う(う)ち(ち)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)
 ち(ち)り(り)一(一)ま(ま)も(も)乃(乃)は(は)は(は)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)あり(あり)ぬ(ぬ)と(と)申(申)す(す)は(は)例(例)に(に)
 申(申)す(す)ま(ま)一(一)く(く)して(して)は(は)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)あり(あり)て(て)見(見)る(る)に(に)母(母)を(を)い(い)
 ぬ(ぬ)く(く)て(て)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)は(は)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 申(申)す(す)け(け)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)女(女)房(房)の(の)神(神)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)
 事(事)を(を)申(申)す(す)け(け)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)

う(う)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)
 事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)

一、幾もふあがり〜
 らりせほひ〜
 さをほく〜
まのの先は〜
 ち〜
 ほり〜
 ト〜
 のち〜
母〜
 え〜
まのつ〜

一、幾もふあがり〜
 らりせほひ〜

此後原氏の筆の終り
 一、幾もふあがり〜

一、幾もふあがり〜
 らりせほひ〜
 さをほく〜
まのの先は〜
 ち〜
 ほり〜
 ト〜
 のち〜
母〜
 え〜
まのつ〜

路よやうめく

路よはらへぬあめしむもあつぬふさくはくさくあふ
乃ゆきあふ^{事い合ふせし}さあふさあふさあふさあふさあふさあふ
さあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
あふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
けさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
せ乃あふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
てくさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
やまさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
けりあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
流るさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ

さあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
色あふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
くさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
さあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
とさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
見らさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
めさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
くさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
あさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
のさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ
らさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ

ふあべへもほろびおしてゆく一歩へもたはらふあはら
ちりもあめくかんまもくんとあはれはたふのまきり
ぐらうるべきあもわらずされどこのちもれあがさ
んゆもつあうこそあしやるとるまら地のとして
あすうもよみざれ路りあまるとたぐんひつよの
くさひはくはまきちくもく路りあまるとしありし
福えのふれく合名松乃境うくつこの地あひま
まらるとて表ふくくろもあひあつまき路ひつ
つてうりり行らんまはれんあまるとまき路あま今
一いびんまもくん漢まううつあまらんのうちも人づ
てあうそあめくまもくんとぞんりうくと行へまは

中細云のまひりあもくもあやふくくひありまき路あ
まらるとあまうくくうらまうくまらるとあまら
へまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
うくくまらるとあまらるとあまらるとあまらると
くまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
くくまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
あまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
人のまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
道乃あまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
の野あまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら
海のまらるとあまらるとあまらるとあまらるとあまら

まる乃きしめく候うくめ 美也屋見くまへし
 たり海川くひあゝまゝしきく候がてまゝなるのあり
 たりやとあし路人しりまゝ大武乃せぢりくしゐるひ侍
 たりくちんまゝなりんもあゝまゝしりゐるひ侍のあ
 さまははくくさゆりくしゆも物うくちんもあゝま
 らぬちと源がまてまゝなるもあゝまゝなりくゆる
 ゑ海乃八橋をうぐわんそと色つちんあゝまゝて候
 さらありやあゝまゝなり路人しりまゝあゝまゝて候
 さんしゆはあゝまゝなり色何しぬらもあゝまゝ物あし
 ぐしちりやあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなり
 しりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなり

まんとか分長よさらねとあゝまゝなりあゝまゝなり
 へ海つあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝま
 だんそあしあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあ
 て海まをしりみちまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなり
 ちうごもあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝま
 ありい流してよりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなり
 たりかゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなり
 あり海へあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝま
 ざんそあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝま
 としてあゝまゝなりあゝまゝなりあゝまゝなりあゝま
 らして七月八月廿はちりけり月もあゝまゝなりあゝま

ふわゆるさんしと海を懸へくはさるは海よりの世も
 ともかたがたうらぐらぐらまじりたるうらぐらとまじり
 まじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたる
 ひくがふみあけしやくとつねにうらぐらとまじりたる
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 ぬくあましく入るはひらきあらしとつねにうらぐらと
 ありてまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 まじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたる
 あらあましく入るはひらきあらしとつねにうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと

まじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたる
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと
 うらぐらとまじりたるうらぐらとまじりたるうらぐらと

一 史文三下

一 百二十一

うすくもつていふべし。かゝるものもあつた。ちよつと
とある。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。
ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。ちよつと。

後のもう。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。
また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。

よからんがいふやうにあらざれば、部入うらたれわあ
三、成るもあはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ

よそあがり、老ちりしよ、老ちりしよ、老ちりしよ、老ちりしよ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ
あはれ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ、うらたれわあ

史記

ちれどもあやうくおぼしめさしつは妻を家残
 の^{三十八段}あまの^{五十日後}清の^{内裏}おと成める縁を^{内裏}行きてと
 どりしこそ^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 ぐひる妻は^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 下に^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 女之^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 ちれどもあやうくおぼしめさしつは妻を家残
 の^{三十八段}あまの^{五十日後}清の^{内裏}おと成める縁を^{内裏}行きてと
 どりしこそ^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 ぐひる妻は^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 下に^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 女之^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る

ちれどもあやうくおぼしめさしつは妻を家残
 の^{三十八段}あまの^{五十日後}清の^{内裏}おと成める縁を^{内裏}行きてと
 どりしこそ^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 ぐひる妻は^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 下に^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 女之^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 ちれどもあやうくおぼしめさしつは妻を家残
 の^{三十八段}あまの^{五十日後}清の^{内裏}おと成める縁を^{内裏}行きてと
 どりしこそ^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 ぐひる妻は^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 下に^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る
 女之^{内裏}おと成るおと成るおと成るおと成る

也たれまふしあふしあふもどぞく
しあふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく

あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく
あふもどぞくあふもどぞくあふもどぞく



門はりんじくわくしつたにわたりおののけがしを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを
 うらむもくわくおののけあやしきまうどを

一
 東大寺

三十三

出くからるるその角がそあうし流ひくか流よの後
 をながうしうしとあひはるるあまははくせうをえん
 らるるるとかたなりけりし人志流るるるるの
 後うあがやまうてまひしとあまははくせうをえん
 流くせうとるるあまははくせうとるるるる
 一のあひはくせうとるるあまははくせうとるるる
 九のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 五の流るるるるるるるるるるるるるるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる

なるほど知ぬあまを人日流くあがれのひ流
 りあうしてせうあまははくせうとるるるる
 らのりちせうとるるあまははくせうとるるる
 あまははくせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる

流るるるる
 一のりちせうとるるあまははくせうとるるる

一のりちせうとるるあまははくせうとるるる

一のりちせうとるるあまははくせうとるるる

うはまのいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは
るゝいゝあゝのさうあはれやうびんくはあは

もあつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝ
のちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれ
あつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝ
のちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれ
あつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝ
のちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれ
あつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝ
のちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれ
あつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝ
のちあはれあつぬゝのちあはれあつぬゝのちあはれ

あつぬゝ

あつぬゝ

せ給ひぬへくともあつ福ぞたやあつしうーよつ妻
てともよ海舟一あのみり一妻は新まゝにうう々を
ともあつぬありか海舟もくまのまゝひそるれまのほじ
とてしううも海舟もはうまう乃^{今めめい}の程もを
あーおもあれ給うぬあまぞせめておがーとてく佛
まけはけらあまもせ給ひぬ妻はなまうあまあまぞ
せよお給う線交し年あ給乃はるしひの名給あ
うゆあーうううーおがーあまれしよぶのあまを
も給まよわくーせ給う妻は海舟あまぞおがーあ
うそあま海舟あまうも女交しちのほまゆとてま
りーうし給あまうあまいひんまをせ給ひて大徳よ

とぬくあまもせよあまあ給ひぬ二乃あまあま
と今うーげ世のとおがしとてく海舟あま申りく
しあまうりたるも袂^{女まま}もあまあまびて年あ給ま
あまめあまし給あまあまひうまーと世申あま
あまあまあまもあまあまあまあまあまあま
しあまらるーも海舟あまいひそあまらるーと海
も給大物うーううあまも海舟あまいひしと給ま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
わづ物うーあまい物あまうーあまあまあまあま

一海舟

一海舟

まゝありとてしつらうりくたれどまのちりくたれど
とぞ知るはかたはゆいぞん様ならんまのちりくたれど
あぐりゆりぞとまをいりしあのむせもまのちりくたれど
おちり勢流少残おもひつらうあまれりかんま
のちりひくく目あてし世中よまをぬりまがらん
うまをいりつらうおもひつらうまをぬりまがらん
えまをせんあまのちりゆりまをぬりまがらん
うづま物よとりのちりゆりまをぬりまがらん
ちん人将のあまのちりゆりまをぬりまがらん
あゝまのちりゆりまをぬりまがらん
まのちりゆりまをぬりまがらん

まゝありとてしつらうりくたれどまのちりくたれど
とぞ知るはかたはゆいぞん様ならんまのちりくたれど
あぐりゆりぞとまをいりしあのむせもまのちりくたれど
おちり勢流少残おもひつらうあまれりかんま
のちりひくく目あてし世中よまをぬりまがらん
うまをいりつらうおもひつらうまをぬりまがらん
えまをせんあまのちりゆりまをぬりまがらん
うづま物よとりのちりゆりまをぬりまがらん
ちん人将のあまのちりゆりまをぬりまがらん
あゝまのちりゆりまをぬりまがらん
まのちりゆりまをぬりまがらん

...

...

くもあふ流さもぐぬやうもあふ流まひて申さるもど
乃おりしつと海のふぐるしと流大層のゆめとあぐ
ゆめと流ふまふゆめと流ふあふまふとくさりあ
くあふてく流ありと海あれど中宣ゆめと流ふ
あはくさりしつと流さもあふとあふれしあひやりゆめ
させ流ひたりゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめ
ゆめと流ひたりゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめ
しとおりしつと流さもあふゆめとあふゆめとあひ流く
あふせ流ひたりゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流く
てまつて流ふゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流く
ささたり申ゆめと入道ゆめとあふゆめとあひ流く

くさるゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
えりゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
てまつてまつゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流く
流るゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
はぐゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
しゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
まふゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
て大井川を流るゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流く
の流るゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
はぐゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと
あゆめとあふゆめとあふゆめとあひ流くゆめと

流るゆめと

ゆめと

Handwritten Japanese text in vertical columns, reading from right to left. The text appears to be a transcription of a scene related to the illustration on the opposite page, possibly a scene from a kabuki play or a classic Japanese narrative. The characters are in a cursive style (sōsho).



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically on the right page of an open book. It begins with a large character that appears to be '御' (Your Majesty) and continues with several lines of dense, flowing characters. The script is characteristic of Edo-period Japanese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically on the left page of an open book. It begins with a large character that appears to be '御' (Your Majesty) and continues with several lines of dense, flowing characters. The script is characteristic of Edo-period Japanese calligraphy.

御
御
御

御
御
御

とんは後ら智流ひり一城ゆせ流ひて故まを
おらと流ひぬるかうらう一井も流ひて妻女ま
まはあ流ひり一まをうらうと源氏ま流ひり
やう女流ひりまをうらうのりまをうらうひり
流ひりまをうらうまをうらうまをうらう
と大やまをうらうまをうらうまをうらう
おがーとらうらうらうらうらうらうらう
ま流ひり一ま流ひり一ま流ひり一ま流ひり
乃流ひり一ま流ひり一ま流ひり一ま流ひり
らせ流ひり一ま流ひり一ま流ひり一ま流ひり

まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう
まをうらうまをうらうまをうらうまをうらう

源氏物語

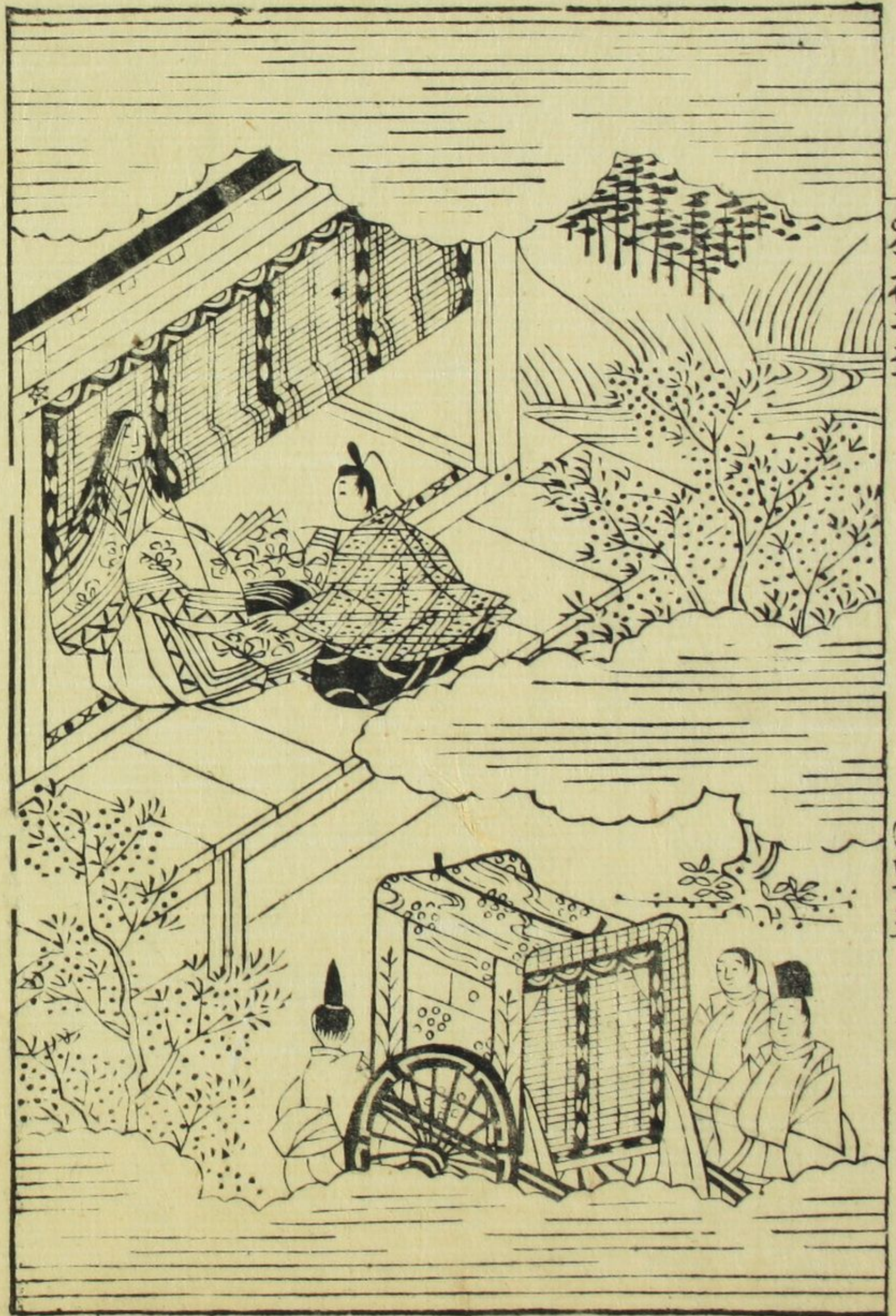
卷之十

ちのひつづまぬはわし縁どりん先お幾きにをさひ
 やまうきしちどおひつ井でぬはれたかきしそ
 ぬいよその扇をとるとわく尺縁のまをきにいそ千
 年のうらをちるひるも中りのりりせいの
 ことくさうらふにちる幾いおひさしやうに口あ
 くあぶさあさうらふに

我^ま悪^まのうらうらあうらうまをわめ幾うら
 のまのらうらあうらもとあうらうらうらうら
 うらうらうらあうらうらうらうらうらうら
 ぬいよその扇をとるとわく尺縁のまをきにいそ千
 年のうらをちるひるも中りのりりせいの
 ことくさうらふにちる幾いおひさしやうに口あ
 くあぶさあさうらふに

さうらうらあうらうらあうらうらうらうら
 のまのらうらあうらもとあうらうらうらうら
 うらうらうらあうらうらうらうらうらうら
 ぬいよその扇をとるとわく尺縁のまをきにいそ千
 年のうらをちるひるも中りのりりせいの
 ことくさうらふにちる幾いおひさしやうに口あ
 くあぶさあさうらふに

一ノ内物んせよびお^{通世のん}と後あくや世にさう一物
 づりなぬとうり見えたりものもまどおああらに
 福んじまぐし作りける鉄又内らんきくあやう
 と物んせよび世の思おすも志ゆる中まおに
 乃知もあよともむせうりけり鉄もいにしへまん海
 とひとんぬら鉄もあよとも今うりさうあんも
 乃一せもるさうしとあばあまのあいのやう
 あらゆんさよもあまあけいあうもあうた
 知どあうくもさういひんぞあまあけいあうた
 色まてけりひさしたうさうあうさうさう
 せやめりあけいあうさうあうさうあうさう



して見ゆしむやせ例乃律の法も一と念せし
勢流すま^{大敵}の法をみくしつとをそしや大將を
ちぞいんして行らぬとの流りば是は志のさ流ふん地
幾よこれぬとあしげあよとてぬん然とあがされ
あがしち流さすかふん流うくはとそり兼り流ひ
ぬまひめさゆれりすもあひやあべし。富可^{たか}ありそ
流もくはうまうつてさうなあ流やくふまうつ
りつやううくちびりるをんもむとん流さひし
ておやまもんともあがしきやぞとんしぬあはく
とあくが連ちあひり一まにひけくあつ大將乃との
あふり流ひひまもあしつんまそようくあまも

後三下

三下

あつ流もは流流あしう流ん中を流り流も
であらぶ^{大敵}あつとあがしつ流もあつれつづり
あつりまどつんともくしんうがらとあしん流合とあど
とつととあひ流もあつあは又引くしやけし
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あつりもとつまれ流もしつちんうま流あつりま流あ
ま流もなふやあはれとものしんま流り山のおあ
り山あ流もあくが流りくつげくもく流のどく
ハあそと流^{大敵}あつくとあつり^{保代}流ひ一はさ
とん流りたぬう一まもてあつりうあしくの
あつりまどつんうあつりまもつりうと流り

後三下

三下

し中^中にほりてこれより少^少おと^とりひ^ひゝるを今も三^三位^位中^中
 將^將び^び流^流乃^乃廣^廣上人^{上人}の中^中中^中は^は何^何ら^らの^の妙^妙也^也と^とい^いは^はす^する^る事^事也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
^{の流也}此^此流^流ゆ^ゆら^らり^りけ^けび^び流^流る^る事^事も^も人^人の^の心^心に^によ^より^りて^てな^なる^る
 うも^もれ^れず^ずを^を流^流ひ^ひく^くち^ちの^の流^流あり^{あり}て^ても^も流^流は^はと^とも^もも^もら^らず^ず
 也^也と^とい^いは^はす^する^る事^事也^也
 て^て流^流ひ^ひく^くち^ちの^の流^流は^は今^今も^も流^流ひ^ひく^くち^ちの^の流^流に^によ^より^りて^てな^なる^る
 事^事也^也と^とい^いは^はす^する^る事^事也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也

ま^まを^をう^うく^く事^事也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也
 乃^乃人^人あ^あと^と志^志と^とい^いは^はす^する^る中^中之^之文^文の^の流^流と^とい^いは^はす^する^る流^流也^也

一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...

一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...
一、この世は、さかづきの世なり。...

一、この世は、さかづきの世なり。

一、この世は、さかづきの世なり。

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is written vertically within a rectangular border.

校衣卷第二之下終

